

第11回川づくりフォーラムを開催しました！！

～里中河川から赤野井湾へ part2～

今年で11回目となる「川づくりフォーラム」を守山市と当NPO法人びわこ豊穰の郷の共同主催のもとに、2月16日(日)午後、コミュニティ防災センターで80名を超える参加者を得て開催しました。最初に琵琶湖で驚異的に広がりつつある外来水生植物のオオバナミズキンバイの除去大作戦の内容と成果について、オオバナミズキンバイ除去プロジェクトから報告がありました。次に立命館大学教授の久保幹先生に「豊かな自然循環型社会を目指して」と題する基調講演をしていただきました。



久保 幹 先生

問題となっている水草を有機肥料化できれば、循環型ビジネスになり得るとのご示唆が印象的でした。休憩の後の活動報告では、中洲小学校4年生20名の皆さんが、模造紙14枚に書き込んだ内容を基に、湖岸のヨシがどのように私たちの暮らしに関わっているかを説明してくださいました。立命館守山中学校のサイテック部の発表では、GPSを使つてのヨシ面積把握の試みなど未知の技術に挑戦する姿勢がアピールされました。

その後のパネル展示発表では、旭化成守山支社など3団体から特徴のある活動報告があり、会場の参加者からも活発な質問があり、大いに盛り上がりしました。アンケートの回答でも、参加の皆さんは本フォーラムの意義を高く評価しており、主催者として苦勞が報われました。



パネル発表の様子

第5回赤野井湾・小津袋クリーン大作戦

去る3月1日(土)9時より第5回赤野井湾・小津袋クリーン大作戦を実施しました。先ず、三品小津学区長から「クリーンな赤野井湾・小津袋にしていこう」と挨拶がありました。小津・玉津学区の自治会、玉津小津漁業協同組合、新守山川を美しくする会、学生ボランティア、市内・市外の方々、国会議員含め総勢80名の参加者が集い寒空ではありましたが参加の皆さんは、少し汗ばむほど熱心に作業をしてくださいました。今回は、ゴミ拾いと併せてオオバナミズキンバイの除去も実施しました。ゴミの種類としてはペットボトルや空缶他、粗大ゴミとして自動車のタイヤ、重機のキャタピラ、ステンレスの流し台他様々なものを拾いあげました。



オオバナミズキンバイの除去作業の様子

また、オオバナミズキンバイも、水中の茎や根などを約1トン除去できました。大変な作業でしたが、最後まで活動して下さった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。これからも「みんなでびわ湖をきれいにしよう・碧いびわ湖を取りもどそう」を合言葉に活動をつづけて参ります。次年度もよろしくお願いたします。



クリーン大作戦に集まって下さった地域のみなさん

家の近所でホタルを数えてみませんか？

今年も、ほたるの季節がすこしずつ近づいてきました。びわこ豊穰の郷では、「守山ほたるパーク&ウォーク」にあわせ、5月中旬から6月中旬の約1か月間、守山市内の69地点にて、ホタルの飛翔調査を行っています。昨年、守山市ほたる条例が改正され、ホタルを保護する川(区域)が増え、その分、調査地点も追加されました。つきましては、家の近所など、調査地点でほたるの飛ぶ数をカウントして、報告して下さる調査員(ボランティア)を募集しています。

調査は、飛んでいるホタルの数しらべで、だれでもカンタンにできます。

およそ1か月間、二日に1度のペースで、決まった地点を調査してもらいます。つづけて観察することで、ふだんは気づかないほたるや川の様子に気がつくなど、いろんな発見や感動があります。

興味をもって下さったら、一度、びわこ豊穰の郷までご連絡ください。もしご家族や友達などで、協力してくれそうな方がいたら、ぜひ、お声がけください。

たくさんの方の地道な調査活動が、「ほたるの住むまち守山」の魅力づくりに担っています。みんなで「住みやすさ日本一の守山」を目指して、盛り上げていきましょう。



身近な河川で新しい発見！

ホタル飛翔調査

- 調査内容：調査地点にてほたるの数を数える
- 調査期間：5月中旬～6月中旬(約1か月間)
- 調査頻度：毎日もしくは二日に1度
※雨天時はお休みです。
- 調査場所：お住まいの近くの調査地点
- その他：保険加入・交通費なし

お問い合わせ先：びわこ豊穰の郷
Tel.077-583-8686 Fax077-558-5007
メール houjyounosato@lake-biwa.net



昨年のボランティア交流会の様子

伊勢町(いせちょう)

伊勢の地名は、昔北国から伊勢参りをする旅人は琵琶湖から今の二町町辺りまでクシツカ川を船で来て、そこから上陸してお伊勢さんまで向かいました、その歩き始めの集落であることから「伊勢」という名前が付けられたといわれています。

一方近年の遺跡発掘調査により伊勢・阿村町地先において弥生時代後期(紀元1世紀末)から末頃(紀元2世紀末)にかけて栄え琵琶湖南部(野洲川流域)を統合した「国」の中心であったと考えられる国内最大級の集落遺跡が発掘されました。『伊勢遺跡』と命名され「国」の成り立ちを知る上で貴重な遺跡であることから平成24年に国史跡に指定されています。

現在の伊勢町は世帯数1030戸、人口2500人を数える大きな自治会となって都市化が進んでいます。其処に住まいする私達町民は2千数百年前に栄えた伊勢遺跡は魏志倭人伝による邪馬台国であって、その国の女王卑弥呼が住んでいたと固く信じ弥生ロマンと古代人との絆を追い求め新たな「伊勢のまちづくり」を進めて参りたいと張り切っています。



伊勢遺跡の模型